

心のノート

私にはこの春から小学6年生になった子どもがいます。

それは5年生も終わりに近づいたある日のことです。家に帰ると、食卓に授業参観の案内があり、久しぶりに学校の話をしました。

「最近、学校楽しいかい。」私が尋ねると、子どもは「うん、すごく楽しいよ。」と笑顔で答えました。

「何をしているときが一番楽しい。」と尋ねると、何やらゴソゴソとカバンから一冊の青いノートを取り出し、「これや。」と言って、大事そうに見せてくれました。いろいろな言葉が単語で書かれていましたが、いったい何のノートかはその時はわかりませんでした。

参観当日、授業の後も、私はしばらく子どもたちの様子を見ていました。それぞれにリラックスした様子で休み時間を楽しんでいる中、友だちと楽しげに話すわが子を見つけました。友だちの言葉に対して、身振り手振りを交えて答えていました。よく見ると、手にはあのノートと鉛筆を持っていました。

私は二人のことが気になって、帰り際に担任の先生に聞いてみました。先生は笑顔で「二人はとっても仲が良いのですよ。」とおっしゃって、二人の関係を教えてくださいました。

その子は聴覚に少し障害があり、まわりの人の話す声が聞き取りにくいらしいのですが、うちの子はその友だちに、身振り手振りや、筆談を交え自分の言葉を伝えているとのことでした。私の知らない学校での子どもの姿を聞いてうれしい気持ちになりました。

家に帰って「今日話していた子と仲良いんだね。」と言ったところ、「そう、あの子は本のことをたくさん知っていて、読んでいる本もすごくおもしろいんだよ。」という返事が返ってきました。

「この本もあの子から借りたんやで。」と、今夢中になって読んでいる本を見せてくれました。それは今まで選んだことがないような分厚い歴史小説でした。

その夜、ふと食卓をみると、子どものカバンの横にノートが開いてありました。それは、普段から宝物のように大事にしているあのノートでした。

そこには、筆談の時に書かれた言葉だけでなく、本の題名や登場人物、感想などが綴られていました。このノートは、二人の心をつなぐ「心のノート」だったのです。友だちから本を紹介されると、それを読み、印象に残った言葉や詩を書き留めてもいるようです。友だちへの言葉もたくさん綴られていて、二人がこのノートを使って楽しく会話している様子が目に浮かびました。

学校で先生から二人の関係を聞いた時には、聴覚に障害のある友だちに親切にするわが子の優しさがうれしく、誇らしく思っていたのですが、実は、その友だちから多くのことを教えてもらっていたのです。人と人がつながるために大切なことは、一方的な優しさではなく、共に相手の事を大切に思う心と、お互いに認め合い、学び合える関係なのだという事を二人から気付かされました。

「行ってきます。」

今日も、「心のノート」を持って元気に登校していく子どもの姿から温もりをもらっています。